

## シンポジウムを開催しました！

## 「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」

【2021年10月19日 府中市市民活動センタープラッツ バルトホール】

当調査会では毎年度、市町村の自治に関する調査研究を行っています。今回、昨年度の調査研究の結果を踏まえ、「ひきこもり支援の必要性～多様な生き方を地域で支援する～」と題してシンポジウムを開催しました。

## 1. 基調講演

はじめに、文京学院大学人間学部教授である中島修氏による基調講演が行われました。ひきこもり状態にある方の実態、ひきこもり状態にある方への自治体職員の認識のあり方等、当シンポジウムの内容に係る基本的な考え方を解説していただきました。



▲中島 修氏

## 2. 調査研究結果発表

続いて、当調査会が2020年度に実施した調査研究結果について、当調査会の齋藤研究員から発表を行いました。ここでは、多摩・島しょ地域自治体アンケートの結果に触れながら、多摩・島しょ地域自治体が取り組むべき方策について提言を行いました。



▲齋藤研究員

## 3. パネルディスカッション

続いて、多摩・島しょ地域の自治体におけるひきこもり支援はどうあるべきか、多様な生き方を地域で支援するにはどうしたら良いか、より理解を深めることを目的に、行政と支援団体という視点から、3名の方に登壇いただきました。基調講演を行った中島氏がコーディネーター役となり、まず登壇者に各々の取組内容を紹介いただき、パネルディスカッションを行いました。

## 【行政が取り組むひきこもり支援】

- ① 文京区福祉部生活福祉課長の戸靖彦氏から、「自治体におけるひきこもり支援～文京区版ひきこもり総合対策から～」として、区のひきこもり支援センターを主軸に複数の相談窓口や関係機関の連携による一元的な支援体制を構築するひきこもり総合対策について紹介いただきました。

## 【支援団体によるひきこもり支援】

- ② 認定特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク代表理事の佐藤洋作氏から、「ひきこもるリスクを抱えた若者たちの自立支援システムづくりとその運営」として、若者の生きづらさとそれを支える周囲のあり方などを紹介いただきました。
- ③ 一般社団法人ひきこもり UX 会議代表理事の林恭子氏から、「ひきこもりをとらえなおす～当事者とデザインする支援とは～」として、個人の体験談や女性向けの支援の必要性などを紹介いただきました。



▲①戸 靖彦氏



▲②佐藤 洋作氏



▲③林 恭子氏

ここまでの講演や取組の紹介を踏まえ、より具体的なポイントを探るべく、意見交換を行いました。地域での理解促進、地域の実情に応じた支援のあり方、広域での支援体制の構築など多岐にわたるテーマで、基礎自治体によるひきこもり支援について活発な議論となりました。

また、質疑応答では事前にいただいた来場者の質問に対し、各登壇者からそれぞれの知見を踏まえた回答と、ひきこもり支援に取り組む方への提案をいただきました。



▲意見交換の様子



オール東京62市区町村共同事業

## みどり東京・温暖化防止プロジェクト

## 市町村の取組紹介

本プロジェクトでは、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及・啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。本助成を活用して多摩・島しょ地域の自治体で実施された取組を紹介します。

かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。

かれん

シーナ



## ① 多摩市 多摩市版クールシェア事業

国が推奨するクールシェアの多摩市版を、2013年度から市内事業者と連携して、地球温暖化対策の啓発事業として取り組んでいます。

我慢するというイメージがある省エネ活動を楽しみながらお得に行えるよう、趣旨に賛同する協賛店舗・施設から市民へ魅力あるサービスを提供いただき、市民がエアコンを消してまちに出掛け、涼を共有しながら地域の経済活性化にもつなげることが多摩市版の特徴です。

今後も市民の皆さんが楽しみながら省エネ活動を行える事業を社会の変化に合わせて実施し、地球温暖化対策に取り組んでいきます。

【問合せ先】多摩市 環境政策課 TEL 042-338-6831



## ② 西東京市 西東京市の環境

毎年新小学4年生に環境副読本「西東京市の環境」を配布し、自然環境保護や地球温暖化など、高学年で学ぶ環境学習の教材として、各学校で活用しています。また、この付録にある「CO<sub>2</sub>削減チェックシート(環境家計簿)」を活用して、市内の全小学5年生に、「夏の省エネ」に毎年チャレンジしてもらっています。具体的には、電気・ガス等の使い方の見直しだけでなく、プラごみや食品ロス削減など、家族みんなで省エネや環境に配慮した行動を生活に取り入れて、自分でどのくらいCO<sub>2</sub>を削減できたか集計し、その効果を「見える化」しています。

【問合せ先】西東京市 環境保全課 TEL 042-438-4042



## ③ 小笠原村 自然環境に配慮した遊歩道整備事業

小笠原諸島に生息する動植物の多くは、偶然島に流れ着き、長い年月を経て島の環境に適応した独自の生態系で構成されています。そのためこれらの固有動植物は環境の変化に弱いのが特徴です。小笠原村では保全と利用を一体としたエコツーリズムによる観光振興を推進しており、エコツアーで利用する遊歩道の整備に自然石と木材のみで修復する「近自然工法」を採用しています。利用者の踏圧と降雨によって起こる土壌流出箇所を専門家の指導を受け現地ガイドとともに補修し植生回復を促すことで、歩道の維持と動植物の保護に取り組んでいます。

【問合せ先】小笠原村 産業観光課 TEL 04998-2-3114

